

## 国語の教科書の使い方

国語科の教科書は、「素材」の集まりであるということが出来ます。

一般的には、「学習材」や「教材」などと呼ばれますが、あえて「素材」とするのは、それなりの理由があるからです。

「読むこと」の紙面構成は、「学習材（文章）」と「てびき」の区別は明確になっています。一方で、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」では、「学習材」と「てびき」の境界がかなり曖昧です。そのため、**生徒の学習の材料となるもの**を総称して「素材」と呼んでしまった方が合理的です。

国語科の教師は、教科書に載っている「素材」で何ができるのか、どんなことを生徒たちに学ばせるのかを考え、「素材」同士をつなぎ、どのように組み合わせるのか、デザインする役割を担います。

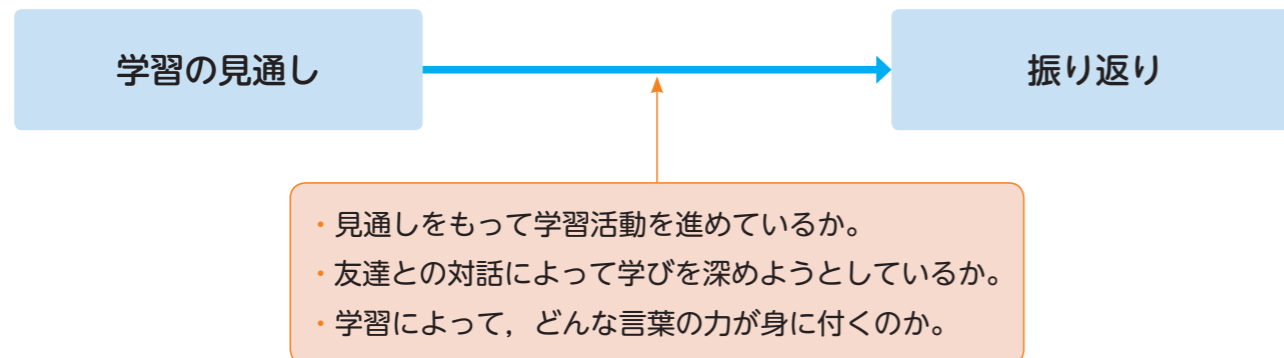
ですが、このような国語の教師の役割を理解していても、「素材」を渡されただけでは、どう生かしていけばいいのか、どのような授業を行えばいいのか、見当がつかないこともあるでしょう。はじめて、その「素材」を扱う若手の教師であればなおさらです。そのときに参考になるのも、また教科書なのです。

**授業の前に**、教師は「素材」をよく観察し、見極め、「学習材」や「てびき」、「つきたい力の一覧」、「思考法の資料」などを参考にしながら、生徒たちが、**①どのような活動を通して、②何に気づき、③何を学ぶのか**、という視点で単元を計画していきます。

**授業中**には、生徒たちと「素材」とを出会い、単元計画に基づいて、学習のねらいを示し、学習の見通しをもたせます。

そして、その学習を実現するために、生徒たちの学習の状況を把握しつつ、意図して教科書の他の教材、てびきやつきたい力、思考ツールなどを参照させます。

**学習の振り返り**では、「何を学んだのか」を、教科書の「てびき」や「つきたい力」に参考にしながら確認します。場合によっては、次の学習内容を確認することもあります。



国語の教科書の紙面構成は、学習内容によって異なります。

次に、主な学習内容、「話すこと・聞くこと」「書くこと」、「読むこと」、言葉の特徴や使い方、言語文化、情報端末との接続からそれぞれの紙面の特性に応じた教科書の効果的な活用方法を紹介します。



### 1 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」

「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の紙面構成は、学習の進め方と参考となる事柄が示されています。教師が授業を構想していく上でも参考になります。また、生徒にとっては、やりとりの例や見本となる文章が示されており、学習を進めていく上で、資料として参考にすることもできます。

ただ、教科書が設定する課題は、どこの教室でもできる活動になっています。そのため、生徒や学校、地域の実態に合わせて、相手意識・目的意識をもつことができる課題を設定することが必要になることもあります。「総合的な学習の時間」や「特別活動」と関連づけて課題を設定してもいいでしょう。

### 2 「読むこと」

文学的な文章、説明的な文章といった文章の種類にかかわらず、「学習材（文章）」と「てびき」という紙面構成になっています。

教師にとって、「てびき」は、教材研究の参考になります。「てびき」にある「コラム」や思考ツールなども、作品の特質を考える上で参考になります。

また、教師は、「読むこと」の学習の内容を決める上で、教科書では、どのようなことがねらいとなっているのか、そのねらいに合わせて、どのような学習が設定されているのかを確認することができます。そのとき、「コラム」の内容の理解や思考ツールを使うことが目的化しないように注意する必要があります。

生徒にとって、「てびき」は学習を進めるために必要な情報が詰め込まれています。これらを参照していくことで、学習を進めていくことの助けになります。

### 3 言葉の特徴や使い方、言語文化

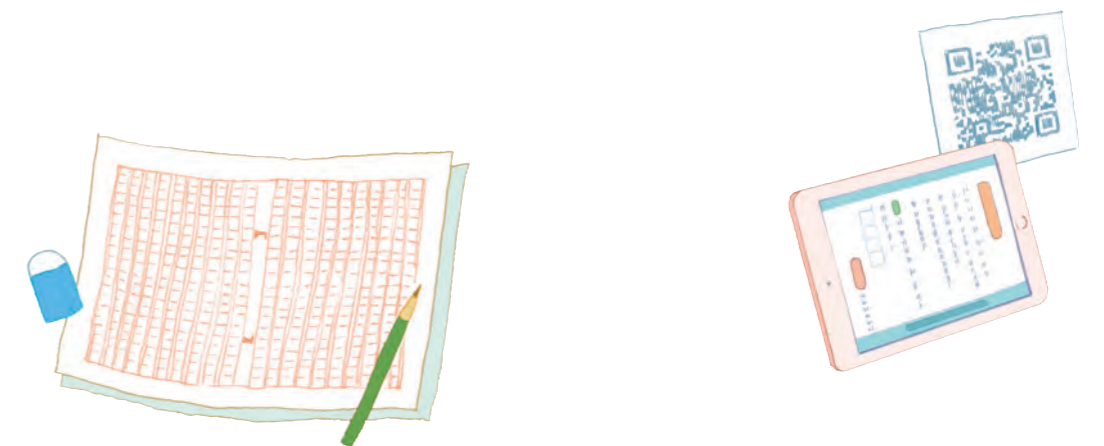
言葉の特徴や使い方にかかわる学習内容の教科書ページでは、読み進めることで、学習が成立するような構成になっています。

そのため、知識として覚えることだけになってしまわぬよう、生徒たちの普段の生活にむすびつけるなどの教師側の工夫が必要になってきます。

また、言語文化では、古文などの教材と簡単なてびきのみで紙面が構成されています。学習活動が丁寧に示されていないため、教師は、どのような学習をつくっていくのか、工夫が求められます。

### 4 情報端末との接続

教科書紙面にある二次元コードは、各教科書が用意しているデジタルコンテンツに接続するものです。「話すこと・聞くこと」では、実際のプレゼンテーションの例を見ることができたり、古文では朗読を聞くことができたりします。授業のなかで視聴して共有したり、家庭学習で活用したりすることもできます。



## 中2 「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く」

### 1. 授業の準備

#### (1) 単元の目標と重点を確認しましょう。

学習指導要領の「書くこと」では、題材の設定・情報の収集・内容の検討、構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有という内容が示されています。教科書では、これらの学習指導要領の内容に準じた格好で学習の進め方が示され、題材の決め方や例文まで、丁寧に記述されています。

ただ、教科書の記述をどのように活用していくのかは、教師の判断が必要です。生徒の学習歴や状況と照らし合わせて授業を構想していきます。

ここでは、「構成を決めよう」と「根拠を考えよう」が教科書での学習過程上の重点であると言えます。「題材を決め、自分の考えをまとめよう」が、他の単元ですでに学習されて、十分に身に付いているのであれば、簡単な確認程度でいいでしょう。

#### (2) 書くための課題が生徒の実態に合っているか確認しましょう。

教科書で示されている書くことの課題は、どの教室でも行うことができるものです。

ここでは、図書館に漫画を置くのは賛成か反対かという課題が示されています。しかし、生徒が置かれている状況によっては、生徒の書きたいという気持ちを十分に醸成することができません。

根拠を明確にして反論を想定しながら意見文を書くということであれば、たとえば、「近々、校外学習に行く予定だが、先行が決まっていないので、先生たちが納得するような意見文を書いてほしい」といった方が、生徒が意味のある活動として取り組むことができるでしょう。相手意識・目的意識をもつことができ、なおかつ、単元のねらいにふさわしいオリジナルの課題を設定してみましょう。

#### (3) 1単位時間ごとの計画を立てましょう。

1単位時間の授業のなかで、何をやるかを計画します。資料を集めるのにどのぐらいの時間がかかるのか、グループで話し合っただけで済むのか、どのぐらいの量の文章を書かせるのか、などを考えて、1単位時間ごとの詳細な計画を生徒と共有していきます。また、「話し合うための観点が必要だから練習の単元を入れよう」や「原稿用紙の使い方の指導が十分ではないからここで指

導しよう」といった生徒の実態に合わせた時間を加えることで充実した学習となります。

### 2. 授業中

書くことの授業を行う上で、教科書の記述は生徒の参考になるものです。

「リード文」などで、「意見文」とはどんなものかという説明がされることもあります。「文章の構成」や「構想メモの例」は、意見文を書き始める前の構想段階でのメモの見本となります。また、これらを参考に作成された生徒の「構想メモ」は、グループでの検討を学習過程に位置付けた場合には、とても役立つものです。他の生徒がどのようなことを考えているのかが見えやすいことで、活発で意味のある話し合いになります。他に、教師の作成したモデル文を示したり、ペアでの対話を取り入れたりすることも、書くことの助けになります。これらをICT機器を用いて行うこともできます。

### 3. 評価

評価については、目標に準じて、重点が置かれている学習の場面でを行います。

ここでは、レトリカルであったり、形が整っていたりするものを「いい意見文」と判断しがちですが、単元の目標に立ち返れば、自分の意見を支える適切な根拠の設定が重要な要素のほうです。それは、「構想メモ」の段階で評価してもかまわないほうです。

単元の最後に、いい作品が書けた、いい発表ができていた、などと評価するのではなく、適切な評価場面で、適切な評価をしていくことが、生徒の書く力を伸ばすことにつながります。



## 意見文を書くこと

意見文とは、自分の考えを述べた文章です。

### 学習のねらい

- 根拠の適切さを考えて、説得力のある文章を書く。
- わかりやすく伝わるように、構成や展開を工夫して書く。



単元の目標  
年間指導計画と生徒の実態に応じて設定します。

#### ① 題材を決め、自分の考えをまとめよう

- ・ 社会の出来事や自分の身の周りのことから題材を決める。
- ・ 表などで整理しながら、自分の立場を決める。

#### ★ ② 構成を決めよう

- ・ 場分の考えが伝わりやすい構成の仕方を選ぶ。

#### ★ ③ 根拠を考えよう

- ・ 根拠になりそうなものを書きだす。
- ・ 書籍やインターネットからも探して書きだす。
- ・ 反論を想定し、反論に対する意見を書く。
- ・ どのような順番で根拠をあげるかを考えて構想メモをつくる。
- ・ 書き出した根拠をグループで検討する。

#### ④ 相手の立場になって文章を書こう

- ・ これまでの学習をふまえて、文章にまとめる。
- ・ 書き終えたら、読み返して推敲を行う。

#### ⑤ 意見文を読み合おう

- ・ 完成した意見文を読み合い、内容や構成について、よかったところ、改善点を伝え合う。

#### ◆ 題材を決める

図書室に漫画		
	私	

#### ◆ 文章の構成

- 頭括型 (主張を最初に書く)
- 尾括型 (主張を最後に書く)
- 双括型 (主張を最初と最後の両方に書く)

#### ◆ 根拠の例

- 「主張」 図書室に漫画本を置くべき
- 「根拠」 漫画を置くことで、来室者数が増えた学校がある。
- ← 私たちの中学校でも来室者が増えることが予想される。

#### ◆ 構想メモの例

- 双括型
- 主張 図書室に漫画本を置くべきである。
- 根拠 ・ 漫画を置くことで、来室者数が増えた学校がある。
- ・ 学習に役立つ漫画もある。
- 反論 ・ さまざまな漫画がある。
- 反論 ・ 反論に対する意見 委員会と先生で……
- 主張 図書室に漫画本を置くべきである。

#### 学習の参考

学習を進める上での参考となる事柄が書かれています。参考にして学習に取り組むことができます。

#### 評価

評価の観点が示されています。観点を明確にした相互評価や自己評価ができます。

## 中2 『走れメロス』を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう

### 1. 授業の準備

#### (1) 単元の目標を確認しましょう。

教科書でびきには、生徒の活動の目標と教師が指導を通じて身に付けさせたい単元の目標が示されています。「走れメロス」においては、人物像や心情の変化、表現上の特徴を捉えることなどが単元の目標として示されています。「学習のポイント」も学ぶべき内容の参考になります。

学習の目標は、本来、教師が生徒の実態に合わせて設定するものです。生徒の実態に合わせて、変更する必要があるかもしれません。いずれにしても、どんな目標に向けて読んでいくのかを生徒と共有していきます。

#### (2) 学習活動を見通しましょう。

「走れメロス」の教科書でびきでは、場面の展開に即して人物像を想像したり、観点を決めて作品について語り合ったりする学習過程が示されています。それをもとに、1単位時間ごとの計画をつくっていきます。場合によっては、教科書に掲載されているものとは別の発問が必要かもしれません。また、教科書の発問であっても、それに回答するための前提となる作業が必要になるかもしれませんし、発問の文言を若干変更するだけでもいいかもしれません。

例えば、「冒頭から「メロス」が王城を出発する場面の「メロス」はどのような人物として描かれているか」という文言に「その根拠となる表現を抜きだしながら考えてみましょう」をつけ加えるだけで、生徒は答えやすくなりますし、意味のある交流を促すことができます。

### 2. 授業中

読みの学習は、他の生徒に対して自分の読みを説明し、理解可能な形で共有していくことが目指されます。

たとえば、教科書の発問にある「「メロス」が疲れて立ち上がれなくなる場面では、冒頭から王城を出発するまでの場面と、考えがどのように変化しているか」ということについて、「「メロス」は、友達を信じることができなくなった」という考えが生徒から出てきたとします。しかし、ここで、すぐに納得して、他の生徒を指名したのでは、十分ではありません。どうして、そのように考えたのか、明かされなければ本当の意味で理解すること

はできないからです。

そこで、教師はそのような生徒に対して、本文から根拠を示すようアドバイスを行います。すると「教科書にある「いや、それも私の、独りよがりか?」というところで、セリヌンティウスを信じられなくなった」という発言が出てくる可能性があります。本文から根拠が示されることで、理解可能な形で考えを共有することができます。

グループ活動中であれば、同じグループの生徒たちに、読みの根拠になりそうな箇所を探させるのもいいかもしれません。

教科書本文は、生徒にとって、話し合うための、考えを共有するための共通の基盤であるということが出来ます。生徒が教科書を活用して、主体的に学習を推進できるよう、教師はサポートに徹します。

### 3. まとめ

読むことの学習では、自分の読みを見直し、再考する必要があります。そのため、まとめは、生徒自身が自分の言葉でつくります。このとき、「学習のポイント」なども含めて、教科書が学習内容をふりかえる参考になります。教科書でびきにある「振り返り」を活用することもできますが、これまでの学習に対応したものになっているか確認しましょう。



## 「走れメロス」

### 学習のねらい

- 「走れメロス」を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう。
- 人物像を捉え、言動の意味について、作品を読み深める。
- 表現上の特徴について考える。

### 1 作品の内容を整理しよう

- ・ 通読し、登場人物、時間、場所、出来事を整理しよう。

### 2 人物像を読み取ろう

- ・ 冒頭から「メロス」が王城を出発するまでの場面の「メロス」はどのような人物として描かれているか考えよう。
- ・ 冒頭から「メロス」が王城を出発するまでの場面の「王」はどのような人物か考えよう。

### 学習のポイント

#### 人物像に着目する

- ・ 登場人物の言葉や行動、態度などがどのように描かれているか着目してみる
- ・ 人物像が変化することがある。どの場面、何がきっかけになったのかを考えるとよい。

### 振り返り

- ☑ この学習を通して学んだことを書こう。

### 自己評価

単元を通じて身に付けたことを、生徒自身で振り返ることができるようになっています。

### 学習のポイント

学習を進める上でポイントとなる事柄が書かれています。ここで示されているものは、この単元を通じて生徒に身につけてほしい、読みの力です。

### 単元の目標

年間指導計画と生徒の実態に応じて設定します。